

平成 28 年 5 月 16 日

各位

会社名 株式会社ソフトフロント
 代表者名 代表取締役社長 阪口 克彦
 (コード: 2321、JASDAQ)
 問合せ先 執行役員財務担当 五十嵐 達哉
 (TEL 03-3568-7007)

平成 28 年 3 月期通期連結業績と前期実績との差異に関するお知らせ

平成 28 年 3 月期（平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日）の連結業績につきまして、前期実績との間で差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 平成 28 年 3 月期通期連結実績と前期実績との差異

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	親会社株主に 帰属する当期 純利益	1 株当たり 当期純利益
前期(平成 27 年 3 月期) 実績 (A)	百万円 397	百万円 △389	百万円 △388	百万円 △412	円 銭 △28.87
当期(平成 28 年 3 月期) 実績 (B)	346	△452	△468	△491	△32.88
増減額 (B-A)	△51	△62	△79	△79	
増減率 (%)	△12.9	—	—	—	

2. 差異の理由

平成 28 年 3 月期は、当社グループの売上の大部分を占める通信事業者向け「通信インフラ上の通信関連サービス」が、通信事業者のインフラ提供に専念するという戦略方向転換により市場が変化したことと、他の IT サービス事業者も当該通信関連サービスを提供するようになったこと、当社の技術を活かした新製品・新サービスが、当社の営業力不足と他の IT サービス事業者との競合激化により販売拡大ができなかったこと等から、通期の連結売上高、連結営業利益、連結経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益及び 1 株当たり当期純利益が前期と比べ減少いたしました。

なお、詳細につきましては、本日発表いたしました「平成 28 年 3 月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」をご参照願います。

3. その他

平成 28 年 2 月以降に資金調達を進めたこと、平成 28 年 4 月に事業基盤拡大を意図した「株式会社筆まめ」の株式取得（子会社化）が完了したことは収益改善に向けた契機になる大きな実績と考えております。

当社グループでは業績を向上させるための新たな中期経営計画を策定し、本日「中期経営計画（2017 年 3 月期～2019 年 3 月期）」で発表しております。当該中期経営計画の下、当社グループは持株会社によるグループ経営体制に移行し、新たな市場への挑戦やスピーディなニーズ対応を進め、また、M&A を基軸とした事業基盤の強化に取り組み、早期に業績回復と財務状況の改善を進めて参ります。

以上

(参考) 当期 (平成 29 年 3 月期) 連結業績予想及び前期 (平成 28 年 3 月期) 連結実績

	連結売上高	連結経常利益
当期連結業績予想 (平成 29 年 3 月期)	2,500~3,700 百万円	30~200 百万円
前期連結実績 (平成 28 年 3 月期)	346 百万円	△468 百万円